



明るく たくましい 明世の子

ビカリア

令和5年度
瑞浪市立明世小学校
NO. 8
R5. 10. 31

みんなで作った運動会

4年ぶりに、全校がそろって運動会を行うことができました。子どもたちの精一杯取り組む姿をみて、胸が熱くなりました。

運動会スローガンは「全力 力を合わせて ～心の底から叫べ～」でした。

まず、全力で走る姿がありました。競走ですから、勝ち負けがあります。勝ち目がなくても、最後の1ミリメートルまで全力で走ることが、自分自身の成長につながります。なにより、途中で放棄せず最後まで戦うことは、一緒に走る相手をライバルとして尊重していることになります。また、自分を応援してくれる紅組・白組の仲間の信頼にこたえることになると思いました。

全力で叫ぶ姿がありました。心の底から、もっと大きな声を出したい、仲間を応援したい、勝ちたい、という思いがあったから、右のような姿になったのだと思います。先生に言われて叫んだのではなく、自ら、もっと、もっとと高まっていこうとしたのです。この姿に心を打たれました。



次に、団体演技です。一人一人が指先まで姿勢を意識して踊りました。体育の授業で、「表現運動」として、リズムに合わせて仲間と踊る運動に取り組んできたものです。動きをそろえ、隊形を意識して行動することで、見る人に感動を与えます。それぞれの学年、曲目にあった表現を心がけて演技・発表をしていました。



最後に、係活動です。高学年は、それぞれ係を担い、運動会を支えました。コロナ禍により、係のお手本を3年間見ていない子どもたち。一から係の仕事や動きを確認していきました。当日、見ている人の多くは、競技・演技を見ていたと思います。しかし、その裏で、高学年児童が働いていました。その動きの一生懸命さに、目頭が熱くなることさえありました。



運動会を通して、一人一人の力が高まったと思います。また、高学年は、係として責任をもつこと、行事を自分たちでつくり、運営していくことを学習しました。こうした学習、行事や授業を通して、少しずつ成長していくのだと思います。

ただ、常に右肩上がりということはありません。全力で走り続けると（緊張）息切れします。一休み（緩和）や振り返りが必要です。緊張と緩和を大切にしながら上ったり下がったりしながら、それでも全体として、少しずつ高まっていくのだということを忘れず指導していきたいと思ひます。